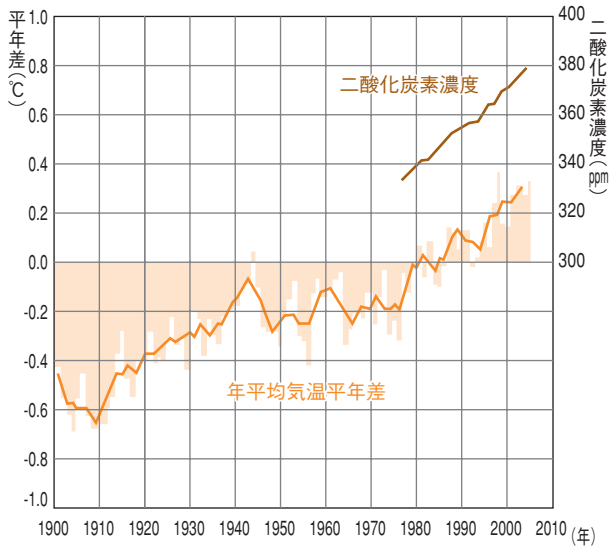


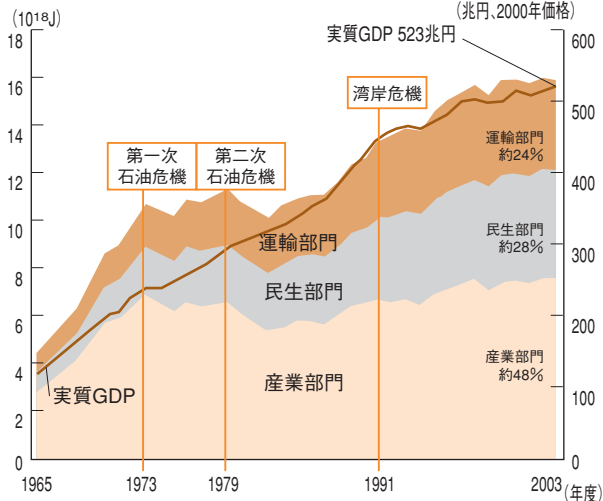
グラフ1

世界の年平均気温年差と二酸化炭素濃度の経年変化



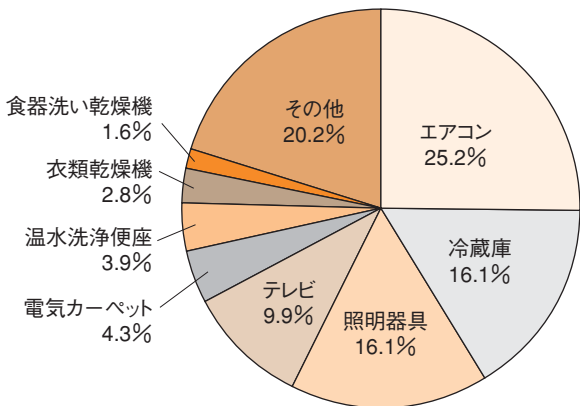
グラフ2

エネルギーの消費量



グラフ3

機器別の消費電力量の比較



※グラフ1～3は、ECCJ省エネルギーセンターホームページ (<http://www.eccj.or.jp/dict/index.html>) から引用

前ページのクイズの答え

- ① 54日間 ② 88cm ③ 5.8℃

過去100年で0.6℃の上昇、今後100年で5.8℃も上昇!

左のグラフ1は、世界の年平均気温年差と二酸化炭素濃度のグラフです。年平均気温年差とは、1年間の気温の平均と、過去30年間の平均気温から算出した年平均との比較です。地球の平均気温は15℃前後ですが、ここ100年で0.6℃上昇しています。さらに、今後100年で、5.8℃もの上昇が見込まれています。また、二酸化炭素濃度は、1750年には280ppmでしたが、1998年には365ppmと、31%も増加し、このままでは、2100年には産業革命前の2倍から3倍以上の540～970ppmへ増加すると予測されています。そのため、世界の国々が京都に集まり、地球温暖化を防ぐための約束事(京都議定書)②を決めました。日本は2010年までに温室効果ガスの排出量を6%減らすことを世界に約束しています。

エネルギー消費は右肩上がり

グラフ2は、国内のエネルギー使用量です。トイレットペーパー騒動が起きたオイルショックの時には、一時使用量が減りましたが、その後は右肩上がり。便利な生活を支えるために、私たちは莫大なエネルギーを消費しているのです。

エアコン、冷蔵庫、照明器具の消費電力量が多い

グラフ3は、家庭の電化製品別の消費電力量を比較したものです。エアコンがやはり消費電力量が多く、次に冷蔵庫と照明器具が続きます。これら3種類で家庭の消費電力量の半分以上を占めます。つまり、これらを手に使えば、節約効果が大きく現れ、省エネルギーになるとともに、電気料金の支払いも少なくて済みます。さて、電化製品を上手に使うためには、どうすれば良いのでしょうか。次ページから、代表的な電化製品のおトクな利用方法をご紹介します。

注1) 特定非営利活動法人秋田県地球温暖化防止活動推進センター (秋田市上北手 遊学舎内) ☎018-839-8309 ホームページ <http://www.eco-akita.org/onsen/index.html>

注2) 京都議定書とは

1992年の地球環境サミットで、気候変動枠組条約が締結され、現在、日本を含む188カ国及び欧州共同体が締約国となっています(2006年6月現在)。これは大気中の温室効果ガス(CO₂等)の増大による地球の温暖化を抑制することを目的としたものです。

この条約の目的を達成するために、COP3(第3回締約国会議)で採択された議定書が京都議定書です。ここでは先進諸国に対して、2008年～2012年の間に、1990年比で温室効果ガスの削減が数値として義務付けられました(日本は6%)。日本を含む140カ国と欧州共同体が締結し、2005年2月16日、京都議定書は発効しました。 ※チーム・マイナス6%(注3)ホームページから引用

注3) チーム・マイナス6%

京都議定書で約束した温室効果ガスを6%削減するために結成した、誰もが参加できるプロジェクトです。チーム・マイナス6%運営事務局(環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室)によって運営されています。

チーム・マイナス6%運営事務局 info@team-6.net ホームページ<http://www.team-6.jp/>